



## — 卯野(うの)修三 議員活動報告 —

拝啓 能美市の各地区で8月の大雨により被災されたみなさまに謹んでお見舞い申し上げます。

さて、今回の第10号は、令和4年6月議会と9月議会の一般質問の内容を掲載しました。ご一読いただければ幸いです。 敬具

### 「勇気・元気・やる気」+「根気・突破力」 能美市議会議員 卯野 修三

(令和4年10月11日から市議会議員2期目の2年目に入りました。)

(1959年(昭和34年)1月3日生まれ) 寺井高校卒業



◆5月20日(金)  
総務産業常任委員会所管調査「公共交通」でオンライン研修に参加  
のし 茅野市 AI乗合オンデマンド交通「のらざあ」(日本版MaaS推進・支援事業)国土交通省 めむろちよう 北海道芽室町 デマンドタクシー導入

◆7月25日(月)・26日(火)  
個人の議員研修で東京へ「財政基礎演習」立命館大学 森裕之教授

◆8月  
8月6～11日までは、家族の体調が悪く能美市内の水害ボランティアには全く参加できず、申し訳ございません。尚、8月12日・15日・9月3日と計3回、小松市の中海地区の水害ボランティアに参加してきました。

◆南加賀の観光ルート調査の観点から山歩き実施中  
6月21日 鞍掛山(478m) 6月29日 観音山(402m)  
7月20日 動山(604m) 9月22日 奥獅子吼山(928m)  
9月30日 奥城山(515m)



◆9月23日(金)  
金沢市教育会館で手話言語の国際デーに参加

◆9月24日(土)  
金沢市元菊町で吃音(どもり)に悩む方のためのスポーツ教室に参加(私、卯野も吃音でした)

◆9月25日(日)  
寺井町自主防災会 合同避難訓練 防災士として参加(寺井町多目的ホール)

◆9月27日(火)  
寺井高校生と共に「根上グリーンビーチ 海岸清掃・大作戦」に参加「SDGsの1つ、海を守ろう」

◆古墳群の一つ。末寺山古墳(前方後方墳あり)は、和田山・秋常山のような整備はせず、古墳時代のような自然の状態をできる限り残したままで保存整備していくことを学芸員に教えてもらいました。HPのみふる便り(2022年9月8日付)にも掲載されています。

## 令和4年6月 議会・定例会 一般質問 一問一答形式 6月15日

(市執行部の役職名、氏名は令和4年6月15日現在です)

**質問 ◆犯罪被害者等支援条例を制定◆**  
能美市における犯罪被害者支援の状況ならびに見舞金だけでなく総合的な支援を含めた犯罪被害者等支援条例を制定せよ。

**答え** 市民生活部 米脇部長  
本市では平成23年度に「能美市安全で安心なまちづくり条例」を制定し、不幸にして犯罪行為によりお亡くなりになられた方の遺族や重症病を負われた方を支援するため、令和元年度「能美市犯罪被害者見舞金支給要綱」を制定しています。議員ご提案の条例制定については、県内では石川県のほか4市町が制定しており、今後、先進事例を参考にしながら条例制定について前向きに検討していきたい。

**質問 ◆官製談合再発防止対策委員会◆**  
①検討チームによる調査の内容ならびに調査結果の公表はされるのか。他方、納入業者への調査について問う。

**答え** 番匠啓介 副市長  
調査結果は必要に応じて市ホームページで報告予定で、納入業者に対してはアンケート調査ではなくコンプライアンス徹底の啓発を進めていきたい。

**質問** ②多極的にチェックしていく観点から市長・議会に経過報告をして、丁寧に進めていく考えはあるか。

**答え** 番匠啓介 副市長  
市長への答申は12月上旬を予定していますが、委員会の進捗に合わせ途中の経過報告などを市長へ報告し、又、議会への報告あるいは相談を申しあげたい。



**質問** ③公益通報者保護法が施行されているなか、能美市での内部職員からの通報・相談窓口の設置について問う。

**答え** 総務部 橋場部長  
市では平成18年から総務課にて公益通報相談を受け付けていますが、今日まで通報・相談の実績はありません。相談体制については、情報提供しやすい環境づくりに努め、通報者の権利・身分を保障し不正行為の抑止力として体制の充実を図ってまいります。

**質問 ◆能美市の観光物産歴史の発信について◆**  
①地域活性化起業人のこれまでの取り組みと成果は。そして今後の取り組みについて問う。

**答え** 産業交流部 谷田部長  
石川県主催の商談会で産業観光の体験プランの提案をし旅行プランが商品化されたり、大手旅行会社2社の全国版パンフレットにも掲載され能美市の知名度向上につながった。今後、能美市にしかないもの、能美市に来ないと体験できないことの観点と、マイクロツーリズム(近場観光)の観点では市内のレジャー施設と辰口温泉とのセットの誘客を図り、北陸新幹線県内全線開業という千載一遇のチャンスに向け、市民・企業・関係団体と連携して取り組んでいきたい。

**質問** ②能美市内には72の神社、25の寺院と計97あり(語呂合わせで苦難をとる)健康づくり、ふるさと愛醸成の観点から発信し、観光コースの可能性を含め発信できないかを問う。

**答え** 産業交流部 谷田部長  
能美市には、国・県・市の文化財が134指定されていて神社仏閣に関係する指定文化財は32あります。今秋には「文化」をテーマにした文化巡り・観光デジタルスタンプラリーを開催予定。又「のみみ検定」に合格の有志の方がジオツアーを実施したり、市民グループでもロゲイニングを計画するなど、市民の方々と連携・協力、市民力を活かした取り組みについて発信し、誘客につなげていきたい。



(裏面もご覧下さいませ)

③能美市出身九谷焼商人の明治初期の横浜でのつながりを活かして、大手菓子メーカー（森永製菓）と大手私鉄（京浜急行）と知恵と工夫でコラボレーションして、能美市を発信できないかを問う。

井出敏朗 市長  
日本の夜明けとされる明治時代、横浜に進出し「ジャパングタニ」として世界に九谷焼の名をとどろかせた商人が、寺井町の横町出身の綿野吉二氏、綿谷平兵衛氏でした。今回の議員の質問により、多くの市民がふるさと能美の歴史を再認識するきっかけになったと思います。先人たちの残した歴史を後世に伝えるとともに、先人たちの築かれた貴重なご縁が能美市のまちづくりに活かされるよう調査研究をしていきたい。

◆JR小松駅からの誘客とJR能美根上駅の無人化対応について◆  
①2024年北陸新幹線県内全線開業後の小松駅で下車した観光客がどのような手段で能美市に来ていただけるのかを問う。

産業交流部 谷田部長  
まず並行在来線へのスムーズな乗り継ぎが有効と思われます。又、市内へ向かう民間路線バスは3路線で増便やアクセス向上が図れないか関係機関へ働きかけます。それから、移動手段の利便性の高いレンタカーの利用を考慮し、業界・機関と連携していきたい。そして小松駅で下車した観光客に対して能美市をPRできる観光情報の提供や誘導サインの設置など、KUTANIismなどで連携している小松市と連携・協議をしていきたい。

②JR能美根上駅が無人化になった場合、能美市の玄関口としてどのような対応をしていくのかを問う。

企画振興部 中出部長  
無人化によって生じるとされる安全性・防犯・治安・サービスに係る課題対策について鉄道事業者や関係者と検討し、全国の無人化対応の先進事例の調査も進めています。先進事例には近隣の駅員が常駐する駅とインターホンでやりとりができる仕組みが多く、諸課題にデジタル技術を講じている事例が多い。2024年春に並行在来線がJRからIRいしかわ鉄道に移管されるので、誰もが安全に安心して利用できる能美根上駅の環境を整えていきたい。



6月議会の一般質問のまくら(冒頭)での発言



「花の色は 移りにけりな いたずらに わが身世にふる なかめせしに」……(紫式部)  
昨日、北陸地方も梅雨入りしたと発表されました。私の本日の質問も、アジサイの花のように、7つの色、七変化しながら、しなやかに核心に迫っていけるよう努力してまいります。

令和4年9月 議会・定例会 一般質問 一問一答形式 9月8日

(市執行部の役職名、氏名は令和4年9月8日現在です)

◆人口減少問題について◆  
①能美創生人口ビジョンの目標達成のために諸政策をどのように進めていくのか。

能美市は平成17年2月1日に合併し、4月1日の人口は47,209人で、平成28年10月に50,000人突破。令和4年10月1日現在49,710人。

井出敏朗 市長  
すべての施策を移住定住の促進につなげて取り組み、移住定住の補助金を県内最大級に引き上げた。又、戦略的企業誘致による多種多様の雇用の創出、新たな雇用の受け口となる宅地開発も進めていく。又、移住定住相談窓口を設け、起業希望者には創業サポートデスクを設け、伴走型で支えていきたい。今後ともシティプロモーション、トップセールスで能美市の魅力を高め暮らしやすさを日本一実感できるまちを目指し将来目標人口の達成にとりくみたい。

②子ども支援等に力を入れることで人口が増加している先進事例の都市を参考に、どのようにして子ども支援等を推進していくのか。

健康福祉部 川本部長  
第2期子ども子育て支援事業計画で安心して子どもを産み育て、子育ての喜びを実感できるまちづくりを基本理念に掲げ、8月に導入した妊娠・出産・子育てをフルサポートする子育てアプリ「はぐはぐ」の活用を図り、子ども家庭センターの機能を充実していきたい。



③企業の担当者間で福利厚生の情報支援ができる場を創出し、又、UIターン者向けに社員を大切に、福利厚生が充実した市内の企業を発信することで移住定住・少子化対策につながると考えるが見解を問う。

この質問は、「日本でいちばん大切にしたい会社」坂本光司 元法大大学院教授 著を参考にしました。

産業交流部 谷田部長  
現在、市では市内の企業の従業員をとりあげた「ゲンバ・ヒーローズ」や市内の企業の特徴をとりあげた「能美の取り柄」などで他の地域にはない能美市の企業の魅力発信をしています。本年度からは、市内企業にはSDGsパートナーシップ制度を活用して勉強会や交流会で情報を共有してもらい、人を大切にする、誰もが働きやすい環境づくりが図られています。その他の企業にも広がっていくことを期待します。

◆中学校の休日部活動の地域移行について◆  
①休日部活動の地域移行についての目的・成果及び1年半経過した3つの部活動の検証並びに教員の働き方改革につながったかを問う。

谷口 徹 教育長  
スポーツ庁委託事業の地域運動部活動推進のモデル地域の指定をうけ、令和3年から市内の中学校の女子ソフトボール部、男女ハンドボール部、男女陸上競技部で取り組み参加した各部の生徒・保護者への調査で、74%が指導を評価し、89%が今後も地域運動部活動の継続をのぞいているとの回答を得た。保護者の不安点としては36%が部活動参加への送迎をあげており、又、62%が会費が発生しても専門的指導者を配置して欲しいとのことで、又、教員の働き方改革の観点からは3つの部の担当教員の負担の軽減がみられた。今後、部活動の地域移行について多くの方からご意見をいただき、解決方策を協議し段階的な地域移行を推進していきたい。

所感として、「能美市は先行してモデル地区に選ばれたので、ぜひNOMI方式を作り上げてほしい」とエールをおくりました。

②地域指導者への教育と部活動参加者への支援や今後の財源確保の展望を問う。

教育委員会 中川管理局長  
石川県教育委員会主催の研修会への参加（本年度8名参加）で指導力の向上を図ると同時に今後、部活動の持続可能な運営体制を構築して、保護者の負担が過度にならないよう必要に応じた財源確保をしていきたい。



③担当するスポーツ振興課と学校教育課を包括した運動部活動の地域移行を推進するための組織が必要と考えるが、見解を問う。

教育委員会 中川管理局長  
現時点ではスポーツ振興課を窓口とするが、今後の部活動の休日の地域移行を順調に進めていくためにも、業務の内容に応じて担当の見直しを進めていきたい。

市議会9月定例会は9月1日開会し、一般会計15億2,400万円の補正予算案が提出され、そのなかで8月の大雨の復旧対策事業に関する復旧費5億9,300万円を盛りこんだ議案は、全会一致で即日可決した。  
残りの新型コロナ対策費と物価対策の学校給食食材費補助やトラックなど運送費への支援、そして家計支援と小売サービス業支援の応援特典券事業（第5弾）などを含めた9億3,600万円は、9月21日議会最終日に可決された。

9月議会の一般質問のまくら(冒頭)での発言



先日、亡くなられた京セラの創業者 稲盛和夫さんは、28才の時、28名の従業員の前で「世界一を目指そう」と事ある毎に語りかけておられました。「どんなに遠い夢も思わないかぎりは叶わない。思っ、思っ、思っ続ける。成功するかしないかは、能力の差ではなく、執念の差である」と。本日の一般質問、執念をもって挑んでまいります。

能美市議会議員 卯野 修三

〒923-1121 石川県能美市寺井町ラ16  
TEL (0761) 58-5811 FAX (0761) 58-5812

メルアド uno0905@tvk.ne.jp  
うの修三 検索 卯野修三

